

第 70 回 全国 高等学校 バスケットボール 選手権 大会 (ウ イ ン タ ー カ ッ プ 2017) 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第70回 全国高等学校バスケットボール選手権大会(ウインターカップ2017)
●日程	平成29年12月24日 (日) ~ 平成29年12月25日 (月)
●会場	東京体育館
●3PO研修会	<p>平成29年12月24日 (日)</p> <p>講師:上田 篤拓氏(FIBAインストラクター)</p> <p>○メカ、プライマリーエリア、プライマリーアングル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本当の意味での3人の情報共有が必要。メカの基本の確認は常に必要で重要。トップリーグでも、吹けなかったケースについて、何を根拠に誰が見るべきだったのか、メカはどうだったのかを常に話し合っている。 ・プライマリーエリアは決められているが、それに縛られてはいけない。見ないといけないプレーを自然に見るべき人が自然に見る⇒それがメカになっている。 ・コートの外側に位置するのはリードだけ、トレイル、センターは基本はコートの中。特にセンターがコートの中にいることで、プレイから離れ過ぎず、メンタルの部分で積極的にプレイに参加しやすくなることに加え、選手を躲す動きが出て、自然とポジションアジャストするようになる。 <p>○チェックイン・チェックアウト</p> <p>ボールのアクセプトとリリース。ボールを見るべきレフリーがチェックインし、そのまま、ボールが逆サイドの審判に向かう際、相手審判のチェックイン無しに、勝手にチェックアウトしないことが大切。</p> <p>○プレゼンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーリングオフィシャルは基本はオポジットサイド。間違ってしまった場合は、周りの審判も自然に間違っただけ。自然に間違っただけならば、観客、ベンチは気付かない。周りからのメンタルイメージは無理に正しくスイッチするよりも、自然に間違っただけの方が良い。 ・プロフェッショナルな走り方、立ち方、歩き方を意識。特にC⇒Cの走り方は大事。C⇒Cはずっとビデオに映り特に目立つ。また、将来的に審査は審判をしている映像で審査官がチェックするようになる。そうなれば、プレゼンテーションが良い人が一番目立つ。 ・テーブルレポートも番号を伝える前にアイコンタクトを先に行う。そして、声を使うことで、テーブルコントロールに繋がり、ミスが減る。 <p>○スクリーンオンザボール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最近の戦術の傾向として、ピック&ロールを代表するように、ボールマンに対してスクリーンをかけることがシンプル且つ効果が絶大で多くのチームが多用する。 ・スクリーンオンザボールは一人の審判で見るのは難しい、表と裏の面を意識し、誰が表を、誰が裏を見ないといけないのか、理解する。 ・フラッシュ: 2点、3点の確認もリードがヘルプする。(メカとして必ずやる。) <p>○レイトコール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファールの絵が出来上がってから吹いても良い。(0.5秒遅らす感覚)

●担当試合	平成29年12月24日 (日) 12:20 ~				
	対戦カード(女子)	札幌山の手(北海道)		VS	就実(岡山)
	主審	竹澤氏	副審1	細見	副審2 梶氏
	講師/主任	石鍋氏(本部)			
	講評	<ul style="list-style-type: none"> ・三人がそれぞれの持ち味がでており、また3人でしっかりゲームをコントロールしていた。 ・3POの役割がしっかりしていて、大きなインパクトのある接触は誰かが鳴らしていた。ゲーム中のコミュニケーションもしっかり取れており、ゲームを通じて3人のメカはしっかりしていた。 ・最後の1プレーのアイソレーションについては、トレイルがビジー状態が長く続いてしまっていたので、リード(細見)がローテーションして欲しかった。 			
自己の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・クルーとして、コミュニケーションを取りながら、ゲームを進めることができたので、とてもやりやすいと感じた。この感覚を大事にしていきたい。 ・途中、リードの際、しなくてもいいローテーションをしてしまったと思い、その後の時間帯に失敗を恐れてローテーションを躊躇してしまうことがあった。気持ちの切り替えが必要。今回は、途中でクルーに相談し、解決できたのは良かった。 				
●担当試合	平成29年12月25日 (月) 15:40 ~				
	対戦カード(男子)	広島皆実(北海道)		VS	草津東(滋賀)
	主審	草野氏	副審1	細見	副審2 若林氏
	講師/主任	岩木氏(本部)			
	講評	<ul style="list-style-type: none"> ・ピリオドの終わりの時間の管理の役割をコート上で、クルーの中ではっきりと示しても良かったのではないかと。 ・ローテーション時、センターからトレイルに変わる際、ボールレベルが高い位置にあるのに、暫くセンターのポジションの位置に居座ることがあるので、センターからトレイルはボールレベルの位置を意識して、ポジションを考える必要がある。 ・TOトラブルがあった。それを防ぐ予防策はなかったか。クルーで誰がファールをしたのか覚えておく。 			
自己の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・センターの際、リードがセンター側にローテーションして来た場合。目の前のプレーがひと段落してからトレイルに上がる意識でいたので、ボールレベルを考えて、センターからトレイルの動きをスムーズにしていきたい。 ・ピリオドの終わりの時間の管理もっと自己主張していきたいと思った。 ・トレイルのミラーを忘れることがあるので、もっと意識する。 				